

重要文化財大石平遺跡出土品保存修理事業（令和5年度）

大石平遺跡は、六ヶ所村にあり、昭和58～60年に発掘調査が行われました。縄文時代後期前半（今から4,000～3,500年前）の住居跡や土坑、配石遺構などとともに、多数の遺物が見つかりました。遺物は、縄文時代後期前半の土器・石器のほか・土製品・石製品には祭祀や儀礼に係わる特殊なものが各種見つかっています。これらは、縄文後期の祭祀や儀礼を窺える良好な資料群であることから、平成7年に198点が重文に指定されました。

これらは、発掘後、復元されてから40年以上経過しているため、当時の接着剤が劣化し接合部分が脆弱になっています。また復元の際に土器の破片が無い部分を石膏で埋め、石膏を土器に近い色で彩色していましたが、退色してきました。これらを安全な状況で展示・保管するため、令和2年度から国庫補助事業（国宝重要文化財等保存・活用事業）を活用して保存修理を行っています。修理は、表面の汚れや最初に組み立てた際の接着剤等を洗浄しながら解体します。解体した破片をアクリル樹脂で強化し、ゆがみを補正しながら組み立て直します。破片がない部分はエポキシ樹脂を充填し、充填部分は周囲の土器と区別出来るように似た色調で彩色をします。

令和5年度は深鉢形土器3点、有孔土製品2点を修理しました。

●有孔土製品

大石平遺跡では、手のひらサイズの楕円形で上面に開口部があり、先端部に穴があいた土製のものが出土しています。これらを有孔土製品と呼んでいます。このような形の土製品は珍しく、使われ方はよくわからず、名称に頭を悩ます資料です。側面や底面に沈線で文様が描かれていることが多く、内面には付着物はありません。端部に小さな孔があることから、紐で吊り下げて使用されたことが考えられます。



修理前

有孔土製品 3

長さ7.7cm 幅5.7cm 高さ3.9cm

修理前は上面の開口部に欠損があり、石膏部の彩色の劣化が目立ってきました。修理後は、開口部の欠損部を樹脂で再現したことで全体の形が整いました。

図掲載：青森県埋蔵文化財調査報告書第90集『大石平遺跡』91p図78-5

修理後



上面



下面

有孔土製品 5

長さ7.1cm 幅(5.1)cm 高さ3.1cm

上面開口部から底面まで欠損しています。欠損部を樹脂で埋め、再現した欠損部に周囲の文様に合わせて沈線文様を表現しました。

図掲載：青森県埋蔵文化財調査報告書第103集『大石平遺跡Ⅲ』第1分冊326p図225-1



修理前

修理後



上面



下面



修理前



修理後



正面（別角度）：
大きく傾むく



土器内面：底が黒い

深鉢形土器 5 口径20.7cm 高さ30cm 底径9.5cm

修理前は接合面のすき間や、破片のない部分を埋めた石膏を彩色した色が劣化してきました。解体後、組み立て直し、すき間を埋め、表面を強化したことで、安定した状態になり、5波状の口縁、胴部全体に描かれた沈線文様が引き立つようになりました。修理したことで、胴部が真っ直ぐではなく、片側に傾いていることも明瞭になりました。土器の内面を見ると、底全体が黒くなっています。外面も部分的に黒くなっていることから、煮炊きに使われていたことがわかります。

図掲載：青森県埋蔵文化財調査報告書第90集『大石平遺跡』218p図198-5



修理前



修理後



文様

深鉢形土器 8 口径19.5cm 高さ20.9cm 底径7.8cm

中型の深鉢形土器で、胴部と底部の一部が欠損しています。口縁は緩やかな4波状であり、先端はさらに2つの小突起があります。修理前は接合部のズレや埋まっていないすき間もあり、不安定な状態でした。解体し組み立て直したことで、形が整い、文様も明瞭になりました。文様は胴部上半に付けられています。最初に胴部に縄文をつけ、その上に沈線で幾何学文を描いています。さらに地文の縄文を一部磨り消すこともしています。土器内面の底は黒く、土器の外側も黒いことから、煮炊きに使われたことがわかります。

図掲載：青森県埋蔵文化財調査報告書第24集『むつ小川原開発地域関係埋蔵文化財試掘調査概報』56p図31-7



土器内面：底が黒い



修理前



修理後



胴部は片側に歪む。口縁に補修孔あり



補修孔2つ目

深鉢形土器11

口径24.7cm 高さ30.8cm 底径10.5cm

口縁が平らな深鉢形土器で、土器のパーツはほぼ残っています。縄文人が土器のひび割れを補修した痕跡が2か所あります。補修は、ひびの両側の土器片に穴を空け、穴に紐を通して縛って固定する方法です。この土器も内面や外面が黒くなっていますが、他の土器に比べ、黒が濃く、内面の縁に広範囲に付着しています。大きく傾いた土器でも補修しながら煮炊きを使用していたことがわかります。

図掲載：青森県埋蔵文化財調査報告書第90集『大石平遺跡』131p図115-8



土器内面（不足した部分を補填した後、補彩前の状態）：縁に炭化物が付着している。